

令和3年度 第1回向日市男女共同参画審議会 議事要点録

○ 日 時 令和3年8月19日(木) 午前10時00分から11時30分まで

○ 場 所 向日市女性活躍センター 大会議室(オンライン開催)

○ 出席者

(委員)

岩野委員、大東委員、高山委員、竹井委員、松野委員、宮川委員、森田委員
(事務局・説明員等)

ふるさと創生推進部 鈴木部長、広聴協働課 小畑課長、上地主査

○ その他出席者

傍聴者 なし

○ 会議概要

議事内容

(1) 令和3年度向日市男女共同参画推進事業について

令和3年度向日市男女共同参画推進事業について事務局から説明を行った。

(2) 令和2年度第2次向日市男女共同参画プラン(改訂版)進捗状況報告について

令和2年度第2次向日市男女共同参画プラン(改訂版)進捗状況報告について事務局から説明を行った。

(3) 向日市パートナーシップ宣誓制度について

向日市パートナーシップ宣誓制度について事務局から説明を行った。

【意見の要旨】

— 議事内容(1)について —

委 員：父親向けの育児講座について、今年度も開催してもらいたいと思うが、昨年度はどのような講座を行ったのか。

事 務 局：今年の2月に計2回の講座を開催し、主な内容としては遊びを通じた子どもとの関わり方について講座を行った。

今年度の内容については現在検討中である。

委 員：募集方法はどのようなものだったのか。

事 務 局：お父さんとお子さんの参加をお願いしたが、お父さんだけでは参加し

にくいことも考えられたため、お母さんも一緒に参加いただけるようにした。

講座の内容によっては、お父さんとお子さんは一緒、お母さんは別講座、といった形で分かれて実施した。

会長：委員から内容についてなにか提案はあるか。

委員：最近はお父さんの育児休暇取得者が増えてきているが、さらに普及するよう、お父さんが育児を行うことが当然の形なればよいと考えている。

そこで育児講座の開催に繋がってくると思うが、育児だけでなく家事についてもお父さんが積極的にできるようになってほしい。

委員：今年度から始めた男性のための電話相談について、相談件数が1件とのことだが、広報はどのように行っているのか。

事務局：市ホームページへの掲載や、市公式LINEでの配信、自治会の回覧などを行い広報に努めている。

委員：女性に比べ男性のほうが相談しにくいということがあるため、効果的な広報の仕方を検討いただきたい。

回覧も一家に一つということもあり、男性が見ない可能性がある。男性が目につく場所として駅に置くことや、講座を実施した際に紹介するなど、色々な方法があると考えられるため検討いただきたい。

委員：父親向けの育児講座について、対象を乳幼児のお子さんを育てている家族など、ピンポイントに絞ったほうが集まりやすいと思う。また、男性のための電話相談の周知が足りていない。

せっかく始めて、かけだしではあるが1件にとどまっているということは、まだまだ知られていないのではないか。

自治会の回覧についてもあまりしっかりと見ないことが多い。

女性のための相談はカードにしてトイレなどの手に取りやすい場所に置いているため、男性の場合もそういった広報を行うといいのではないか。

事務局：男性のための電話相談の広報については、JRや阪急に問い合わせ、トイレに周知用のカードを置くことについて相談した。

しかし、イタズラによって詰まる原因にもなるといった理由から、検討はしたが断念した経緯がある。

- 会 長：市の広報紙をさっとみるだけでは気づきにくいいため、利用者が増えるよう広報の方法を工夫していただきたい。
- 委 員：女性のための相談について、向日市で相談しにくい場合は京田辺市などでも相談できるとあるが、向日市にも他市から相談に来られていることはあるのか。
- 事 務 局：基本は向日市在住の方が来られているが、向日市の予約が埋まっていたときに、他市にも相談いただけるような体制を取っている。
- 委 員：新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業の実施自体ができない状況の中で、どのように開催するのか前もって考える必要があると思うがどうか。
- 事 務 局：昨年度における事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため事業を中止される課が多かったが、コロナ禍においても実施可能な開催方法を担当課において検討している段階であり、オンラインや書面での開催等が考えられる。
- 委 員：インターネット環境がないとオンラインで参加できないなど課題はあるが、今年度は未実施ではなくなにか代替りになることができるようお願いしたい。
- 会 長：ワークショップとなるとオンライン開催は難しいように感じる。
- 事 務 局：意見交換をする中で理解を深める方法としてワークショップは有効な方法であり、開催する際はパーティションを立てて感染症対策を行った上で開催したいと考えている。
- 委 員：大学の授業でもオンラインでワークショップを行っているため、知恵を絞りながら色んな方法を検討すべきである。
- 委 員：ノー残業デーを啓発し実施するとあるが、周知はどのように行っているのか。
- 事 務 局：毎週水曜日に人事課から、全職員が確認できる電子掲示板において周知している。
- 会 長：効果は出ているのか。
- 事 務 局：長く取り組んでいるので、水曜日がノー残業デーという認識は浸透しており、各所属において声かけを行うことで、ある一定の効果は出ているものと考えている。

—議事内容（２）について—

会 長：進捗状況調査の自己評価が、第三者の目で見ると異なるのではないか。

事 務 局：それぞれの課の進捗状況については差があると思っているが、具体的な評価の理由等については把握していない。

会 長：保育所で慣例となっている言葉遣いについて、利用者の指摘で一般家庭では使われていない表現であると気づいたという話を聞いた。
進捗調査によると、子育て支援課において男女共同参画に特化した研修を知ってしないとあるが、第三者の目から「日常の中であって気づきにくいジェンダーバイアス」を研修で取り上げることも現場にとっては有効ではないか。

事 務 局：新人研修を保育士の方にも受けていただいております、実際に保育をする場合において、男女共同参画や人権に配慮するよう、表現ハンドブックを用いて今一度考えてもらうようにしている。

委 員：保育の現場は言わばクローズな環境であるので、気づきにくい部分はあるかもしれないが、夫婦で働くために子どもを預けられる場を提供しているため保育の現場が男女共同参画からずれていることはない。
ノー残業デーにおいても、働く人の処遇改善は重要な問題であるため保育所においてもしっかりと守らなければならない。

委 員：幼児期から人権感覚を養うということが重要だと思うため、男の子も女の子も対等な関係で育つことが、いじめを無くすことにまで繋がると思う。

公立の保育所が中心となって研修していただきたい。

保育士の人数についてだが、公立保育所の男性保育士数が60名中2名のみにとどまっている。

市内に公立保育所は3園あるため、最低1園は男性の保育士がいらないと思うが、そのあたりについても考えていくべきではないだろうか。

委 員：特に年長のお子さんだと男性保育士が必要になってくる。

保育士の中でも、お母さんお父さんの役割を大事にする人がまだまだ多いため改めていかないといけない。

委 員：保育の現場で男の子は泣いてはいけない、といったことが以前は言われていたと聞いたことがあるが、現状はどうなのか。

委員：男女関係無く感情表現を上手く行うことの働きかけを行うようにしている。個人を大事にして、感情表現をしっかりさせて、それを受け止めてあげるということを行っている。

委員：男の子も男性の保育士がいると懐いて遊ぶところを見るが、男性保育士の人数を増やすことはできないのか。

委員：増やしたいが、なり手がいない状況。
これまでから女性ばかりの職場であったため、すぐには難しいかもしれないが、女性だから男性だからといった観念にとらわれない職場にならないといけないと考える。

委員：毎年、PTAにおいて講座を開催しており、昨年度も感染症対策のため定員を減らすなどして開催した。
今後も、コロナ禍における開催方法等を検討しながら講座を開催し啓発を行うことが必要と考えている。

会長：審議会等における女性委員比率について、以前から財産区管理会に女性委員がいない。
地元の有力者が任命されていると思うが、今後はそういった委員会においても女性が登用されることを望む。

委員：財産区管理会の女性委員数が0とあったが、条例を見る限り市長に専任の権限があるため女性を登用することは可能であるはず。今後、そういった委員会においても女性の委員登用が増えるとよい。

—議事内容（3）について—

委員：法律上婚姻できない者同士で養子縁組に入るといった理由からなのか。

委員：養子に入ること、養子縁組としての法律上の関係性が生まれ、行政サービスが受けられるものがある。
そのため、法的な関係性を持つとすると、同性婚が認められていないため、養子に入ることになる。

会長：京都市、亀岡市、長岡京市が先んじて行っておられるが協定を結ぶ予定はあるのか。

事務局：ゆくゆくは結びたいと考えている。全国的にも広がっている制度であるため、これを機に男女共同参画社会の形成に繋げていきたい。

会 長：本日の議題については以上で審議終了とする。

事務局から次回の日程について説明をお願いしたい。

事 務 局：来年の2月ごろに審議会を開催予定である。日程調整のうえ開催する。